

京滋の主要電機・ハイテク系企業の10年3月期第1四半期状況

京滋に本社を置く主要電機・ハイテク系企業の10年3月期第1四半期決算が出揃った。連結ベースで主要企業7社合計の売上高は前年同期比31.9%減、経常利益が同81.6%減で、経常赤字が4社と厳しい状況に。ただ、第2四半期(09年7~9月)について、中間期予想を発表していない京セラを除く6社で予想値を集計すると、売上高が12.5%減、経常利益は5.9%減となり、通期(7社ベース)では売上高が前期比6.3%減、経常利益は同18.5%増の見通しと、先行きには徐々にだが明るさも。以下、京滋の主要電機・ハイテク系企業7社の現況をまとめた。

日本電産(6594)

第1四半期は、売上高が前年同期比29.3%減、経常利益は同62.6%減。グループ全体で取り組む「WPR」プロジェクトの活動成果による収益性改善などで、通期経常利益はほぼ横ばいに。

オムロン(6645)

第1四半期は、売上高が前年同期比37.1%減、経常損益は赤字と厳しい事業環境だが、当初予想の範囲内で推移。民生用、環境関連商品を中心とする需要拡大など一部で明るい兆しも。

ジーエス・ユアサ コーポレーション(6674)

第1四半期は、新車用自動車電池の需要急減などにより、売上高は前年同期比29.7%減、経常赤字に。自動車用リチウムイオン電池の強化や経費削減などで通期経常赤字は大きく縮小へ。

ローム(6963)

第1四半期は、売上高が前年同期比5.9%減、経常損益は赤字。09年9月中間期予想を売上高1,600億円(修正前1,560億円)、経常損益15億円赤字(同75億円赤字)に増額修正。

京セラ(6971)

第1四半期は、売上高が前年同期比32.1%減、経常利益は同98.1%減だが、携帯電話端末の在庫調整一巡を背景にデジタルコンシューマ向け部品需要が09年1~3月期比で回復基調に。

村田製作所(6981)

第1四半期は、売上高が前年同期比20.4%減、経常損益は赤字に。一方、受注残高は09年3月期末比で46.8%増と大きく拡大しており、第2四半期についても引き続き増加の見通し。

任天堂(7974)

第1四半期は、売上高が前年同期比40.1%減、経常利益は同63.4%減。海外を中心に好調な「Wii Fit」「マリオカート Wii」などに加え、通期では「Wii Sports Resort」も業績寄与へ。

会社名	コード	決算期	売上高		経常利益		1株当たり利益	1株当たり配当
				増減率		増減率		
日本電産	6594	10.3 予	550,000	-10.3	47,000	-0.1	215.4	50.0
オムロン	6645	10.3 予	510,000	-18.7	3,500	39,133	9.1	未定
GSユアサ	6674	10.3 予	240,000	-15.3	5,000	-54.5	6.8	5.0
ローム	6963	10.3 予	350,000	10.4	22,500	21.3	91.3	130.0
京セラ	6971	10.3 予	1,040,000	-7.8	57,000	1.8	185.3	120.0
村田製	6981	10.3 予	505,000	-3.6	2,000	10,139	4.7	70.0
任天堂	7974	10.3 予	1,800,000	-2.1	500,000	11.4	2,345.9	1,270.0

(10.3 予は会社側発表値による。単位は百万円、%、円。 は赤字。増減率内の は前期の赤字額)

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。